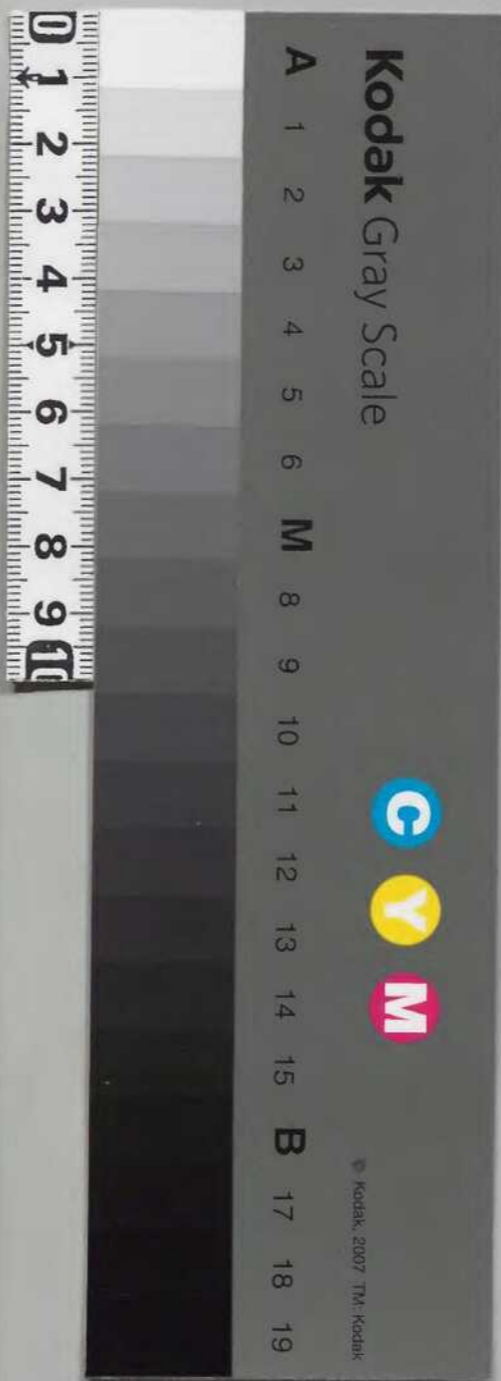
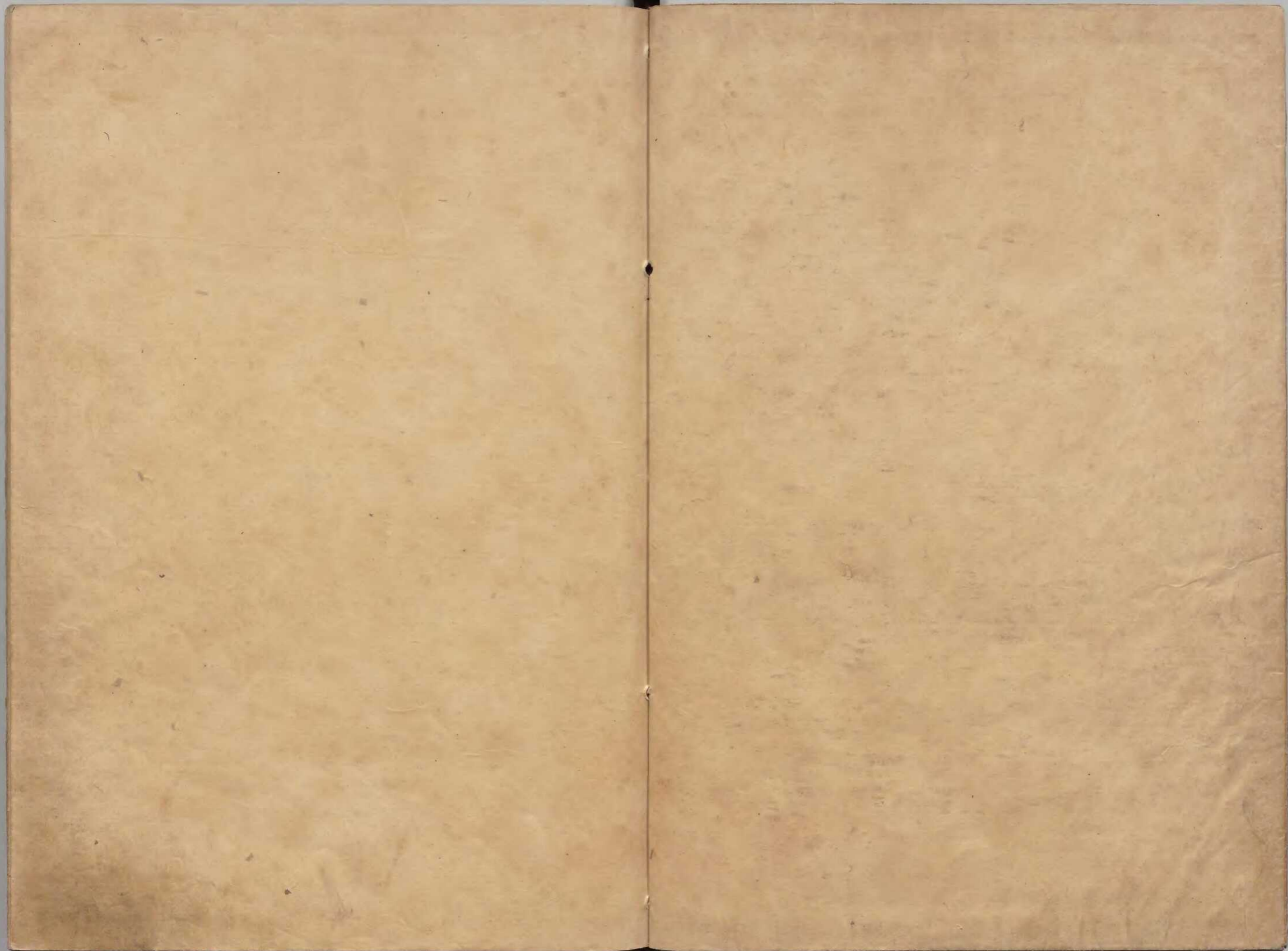


寛永諸家譜

宇多源氏
七卷之内

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186 (157)		
函號	特	76	1





佐々木

西尾

水原

佐々木

源尾

土屋

寛永諸家系圖傳

宇多源氏

佐々木

六角乃流なり



會亭九代
宇多源氏

御諱 多定 若 真子院と号す

仁和帝 寛平法皇 之 孫なり

教実親王

宇多帝弟九乃皇子 一品式部卿
仁和寺乃父と号す 母内大臣
藤原高成乃女 法名覺真

雅信

一条右大臣 従一位 贈正一位
鷹司と号す

重信

右大臣 正二位

寛信

左京大夫 正四位下

寛躬

东寺一長者 法務 大僧正

杖義

中書大史正之位 冬議右大辯
母右大納言光房乃女 或曰名方の女
そとめと依之木より依一江列の
守護とたより

成彩

江史位下 武部大史 公府助

章經

江史位 女史 江列 総 追補使

經方

依之木源次大史

為後

武部丞 依之木元房乃下司

成後

本村

行実

伊庭

家行

智源守尉大吏

行定

真野

船本

恒誓

十八禅師

秀義

若部忠信、本冠志源之と号と
江列総進福使

六条判友為義乃養子あり

定綱ていこう

匡之佐依、本判友左郎

小系時政解とくなり

正治二年乙丑月九日河内柏原赤之郎と

珠冠たまがむす——柏原の店と依よと

建仁二年山門堂乃衣流とわひひと

ひひ高名あり

慈恩寺為津堂乃衣いなり
級くわい八目法はつめい

經高けいこう

二郎 中務なかつむ忠ただ

盛綱もりこう

之郎友戸乃海と後あとと
級くわい八連はつれん

高鑑

四郎 宇治川とていふこと

義清

五郎 垣屋隠岐 級ハ輪遠

藏秀

六郎 右田六郎と号して級ハ三洲
後山法師となり法橋と号して

能惠坊

定重

定高

信鑑

左内侍 後上佐 四郎右衛門 左衛門 左衛門
右衛門と号して 法名 淨佛

廣定

馬淵五郎左衛門

定藏

時經

鏡平刀右衛門

義經

朽木右衛門

信列公入道退治のこゝに軍忠を抽け

これよりしりし心算ありあつる

行經

伊佐七郎

定頼

山内伯耆

頼定

山中十郎

重鑑

母大原大郎左衛門尉の女

兼久之年流安らり河川と河と

高信

母高次郎左衛門尉の女

信俊

恭鑑

六角を改す母長尾守恭時の女

氏信

京極對馬守の京極小僧と

母高恭鑑と同

新鑑

依本使中と大支判友は法名は宗世

宗信

信武の継子に侍るに即ち在り
富土川よりとひて討死

成徳

源之助 富土川よりとひて討死

宗鑑

少名し童子丸 後堀部長之助に討死

号と在り討

依、本総領職と交

二歳少く祖父宗鑑の書と傳ふ

はくは道に達し 荒玖波集

入九ヶ國乃守護とたふ

應永六年八月廿七日七十八歳

卒

時信

三郎判友 延正位 右近尉
實成 經之男 たり 宗經 卷子
あり 六角 乃 教習 と 法名 玄流
と 号 と 法名 玄流

宗泰

依、本依 後判友

氏頼

六角之郎 宗泰 射 延正位 上 大支判友
慈母 与 戒津 乃 本頼 あり 亡母 十三子
忌乃 二 塔 と 遠立 と 塔 并 金剛寺
威徳院 之 寺 乃 本頼 たり
應安 二年 六月 七日 四十一 歳 没 卒
法名 智 宗 永

満高

依中大支判友

氏親次男たり嫡男義信いませ家

督とうけむと十七歳少く死と成ふ

満高うねを法ぐ

應永廿三年十一月廿日軍八歳少く

卒と法名宗喜大慈院と号と

満高

満高乃字と綴りありあゝいじ大膳大支

六角入道新やちと号と

文母之身正月廿之日江列威徳院

とひく日名と法名宗喜

久松

後五位 左近将六角正光と号と

康正二年十月二十日卒と法名周恩

定頼

大膳左六右新免院と号す

永正十七年八月廿一日卒と法名

宗椿

氏鑑

宗江守

永正十五年七月九日卒と法名

宗龍雲光寺と号す

定頼

浮正丸彌 後田位下 宗の國乃ち獲と

宗

くのらを俗一柳の木と号す

カと号す一糸義植と号す

カと号す一糸義植と号す

元一しひくいく我りくわおふ
里故一り刀たしとたしり

永正二年船置山合戦一先陣

志軍切わり故一管領職と給り

河列親善山山城一居館と後

河原寺と号と

天文廿一年正月より一率と

法名克定飛云

高保

中務大掾 大原氏乃家督と給く

高実

惣介梅戸氏乃家督と給く

義賢

左京大夫 恒也位下 後任 四位下 攝と

義輝より 諱の字と給り 後任 職と

交

河内親善寺山の城より恒在と

交長三年二月十日より一率と

法名兼禎梅心院と号と

女子

貞徳寺波室

女子

本願寺門跡室

女子

能列富山室

義輝

後義治とありし 右忠の督

義輝より輝乃字と号と上江國の守護

とあり

交長十七年十月廿二日より一率と

法名 鷗庵玄雄

女子

勝川園日室

賢永

後高定とありし中務大納言
大原高保が養子となりし家賢と
つとむる山乃城より恒春と

開ヶ原沙陣乃好められし

大権現より流しし

元和六年八月九日よ薨と歳七十也

法名兼漢 識字軒と号し

高賢

右左大進

安長六年七月廿六日一死

高和

大膳大夫臣之侍下生國全

長二年十二歳少

大権現一湯

名徳院殿

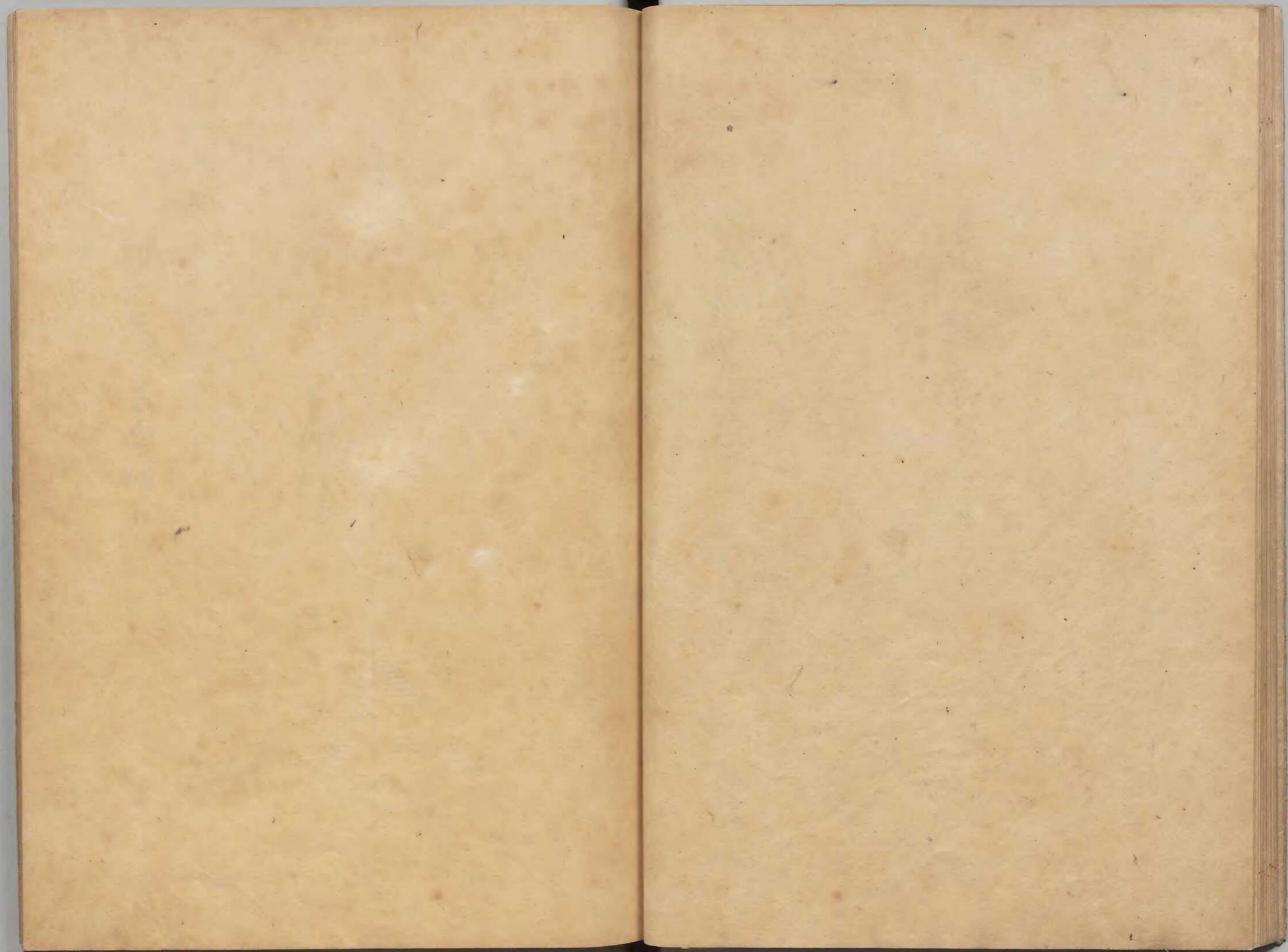
將軍家一

高重

外記 生國後河

將軍家一
乃事

家乃紋目法 桐塔



伍之本

●
重正

河内守

生國
治法

一
正

新在書
後列
生國
同書

大指現一錫

一正元次父子

一正元次下系伊豆系系浦系林久島

一正元次下系伊豆系系浦系林久島

一正元次下系伊豆系系浦系林久島

一正元次下系伊豆系系浦系林久島

一正元次下系伊豆系系浦系林久島

一正元次下系伊豆系系浦系林久島

一正元次下系伊豆系系浦系林久島

一正元次下系伊豆系系浦系林久島

一正元次下系伊豆系系浦系林久島

一正元次下系伊豆系系浦系林久島

一正元次下系伊豆系系浦系林久島

元次

一正元次

一正元次下系伊豆系系浦系林久島

一正元次下系伊豆系系浦系林久島

一正元次下系伊豆系系浦系林久島

一正元次下系伊豆系系浦系林久島

右院殿乃幕下^{ひかり}御仕^{ごし}一^いし^しり^り
安長十之年六月十七日^{あながし}乃死^にと^と歳^{さい}
四十九^{よんじゅう}法名^{ほふな}淨人^{じやうにん}

正次^{まさつぐ}

左^{ひだり}生國^{なまくに}作^{しやく}治^ち

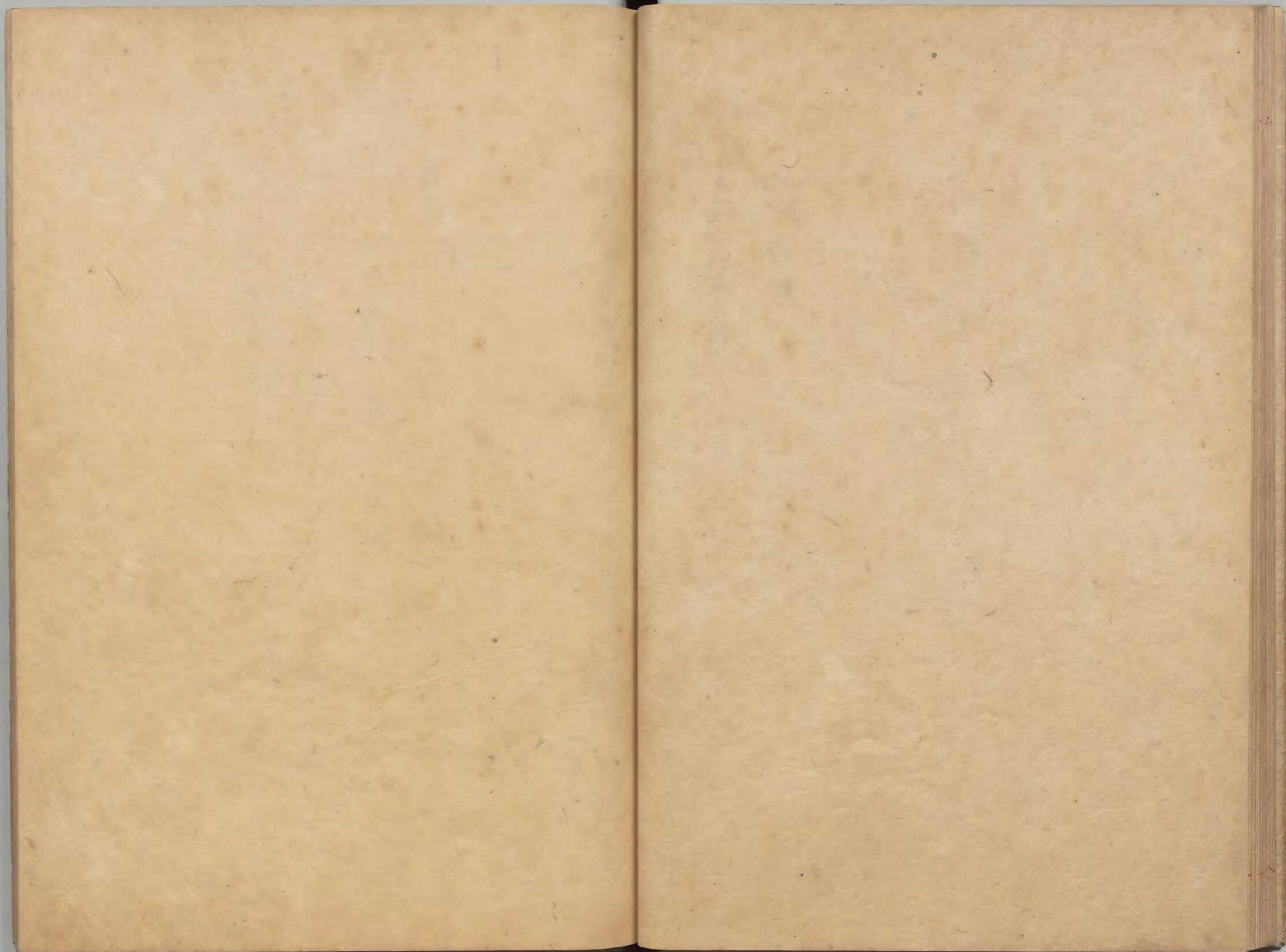
正成^{まさなり}

唐^{たう}之^の序^{しよ}

正信^{まさのぶ}

理^り助^{すけ}

家^{いへ}乃^の級^{きやく}甲^か圓^{えん}結^{むす}



● 長法 ながり

依 よ

勝右衛門 生國尾法 かたり

天正十四年大坂よりして編纂七十九

歳法名澤法 しげり

長成

長之昂

信濃寺 生國同家

秀吉

信久大坂 信と秀吉

薨逝の後

大権現 信久 信と秀吉

たろ

大権現 信久 信と秀吉

信久 信と秀吉

一信と信久 長成の

長成 奥列陣乃

信久 信と秀吉

信久 信と秀吉

小山 信と秀吉

あり

大権現 信久 信と秀吉

乃 信と秀吉

あり

一統 乃 信と秀吉

素田郡よとひく史百ふとくりへ移り
不^し知^らと合千五十俵ふと依^り

同九年六月廿二日送史信下よ叙^し
信^の信^のさ^り何^じ

大坂冬夏支交^り陣^によ永^い井^い右^えを大^お丈^ぢ
組^く一^い属^し一^い軍^{ぐん}役^{やく}と信^{しん}とむ

大^お檀^{だん}現^{げん}薨^{こう}津^つ乃^の後^{のち}駿^{しん}府^ふより江戸^{えど}より
右^{みぎ}津^つ院^{いん}殿^{でん}より信^{しん}と一^いくま^くより一^いく

奇^き合^あ組^{ぐみ}とた^たん^ん後^{のち}

将^{しょう}軍^{ぐん}家^けより湯^ゆ力^{りき}より一^いくま^くより一^いく

寛^{かん}永^{えい}二^に年^{ねん}江戸^{えど}より一^いくま^くより一^いく^く高^{たか}礼^{れい}歳^{さい}

六十八

長^{なが}重^{しげ}

右^{みぎ}平^{へい}右^え甘^{かん}國^{くに}持^{もち}博^{はく}

大^お檀^{だん}現^{げん}より信^{しん}と一^いくま^くより一^いく^く御^ご膳^{ぜん}表^{ひょう}

よつとむ

享長十九年九月後討よとひて病死

長次

指書来 生國同家

享長十九年十二月京都よとひく

大権現より海へくくまらり徳川の

らりくくまらり兄長守の徳意也百

ととくまら

大坂長洲陣より永井右を大吏継よ

変して信奉と後

名徳院殿より信へくくまらり徳意

徳とつとむ

寛永二年又長成死してのら振別

鳴尾村よりとひく二百五十餘石

くくまらり合乃徳地二百石給合

千石十餘石と徳也

同年十二月十日

名徳院殿より沖朱印と項戴と後

將軍家より詔之しつゝ
寛永十年乙未國よりして二百
乃此をく之終ふ

正成

四郎之郎 甘國山城

元和四年

名瀨院殿より湯刃湯けんよりして浦り

同九年より書院裏よりして父

長成長成よりして後丹波國赤田郡の内
二百石と相領す

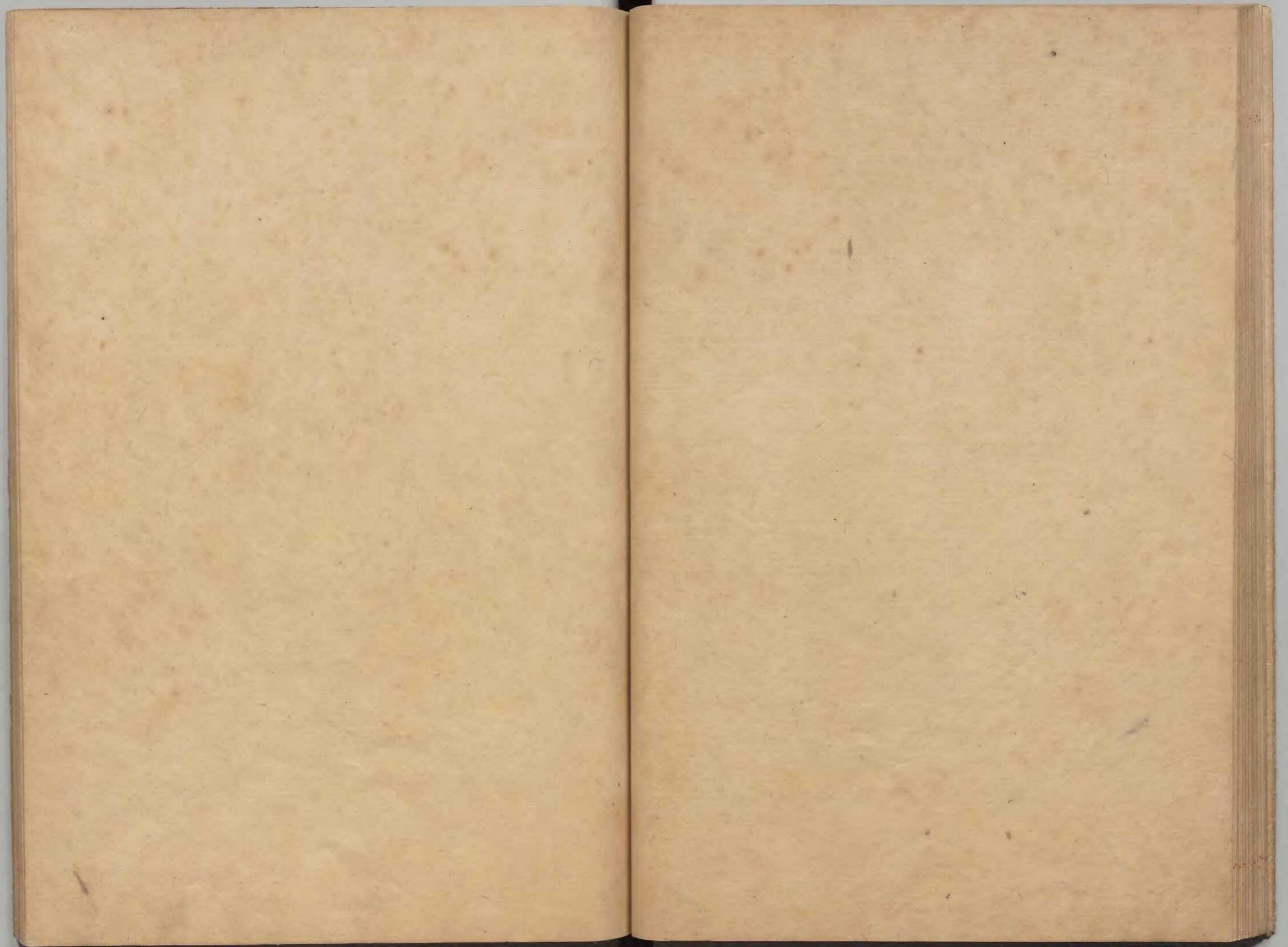
寛永二年十二月十日

名瀨院殿乃沙沙系系と改載しつゝ

將軍家より詔之しつゝ浦り

同十年乙未國新田の内よりして

二百石乃此をく之終ふ



定改

佐

生國冬河

三列少之

大権現

少之病

定次

と大坂の甘國同好

天文長十年より

名瀬院殿より此へくまら

同十九年大坂清陣より此へ

同二十年五乱の此甲首と此へ

定次

と大坂の甘國武蔵

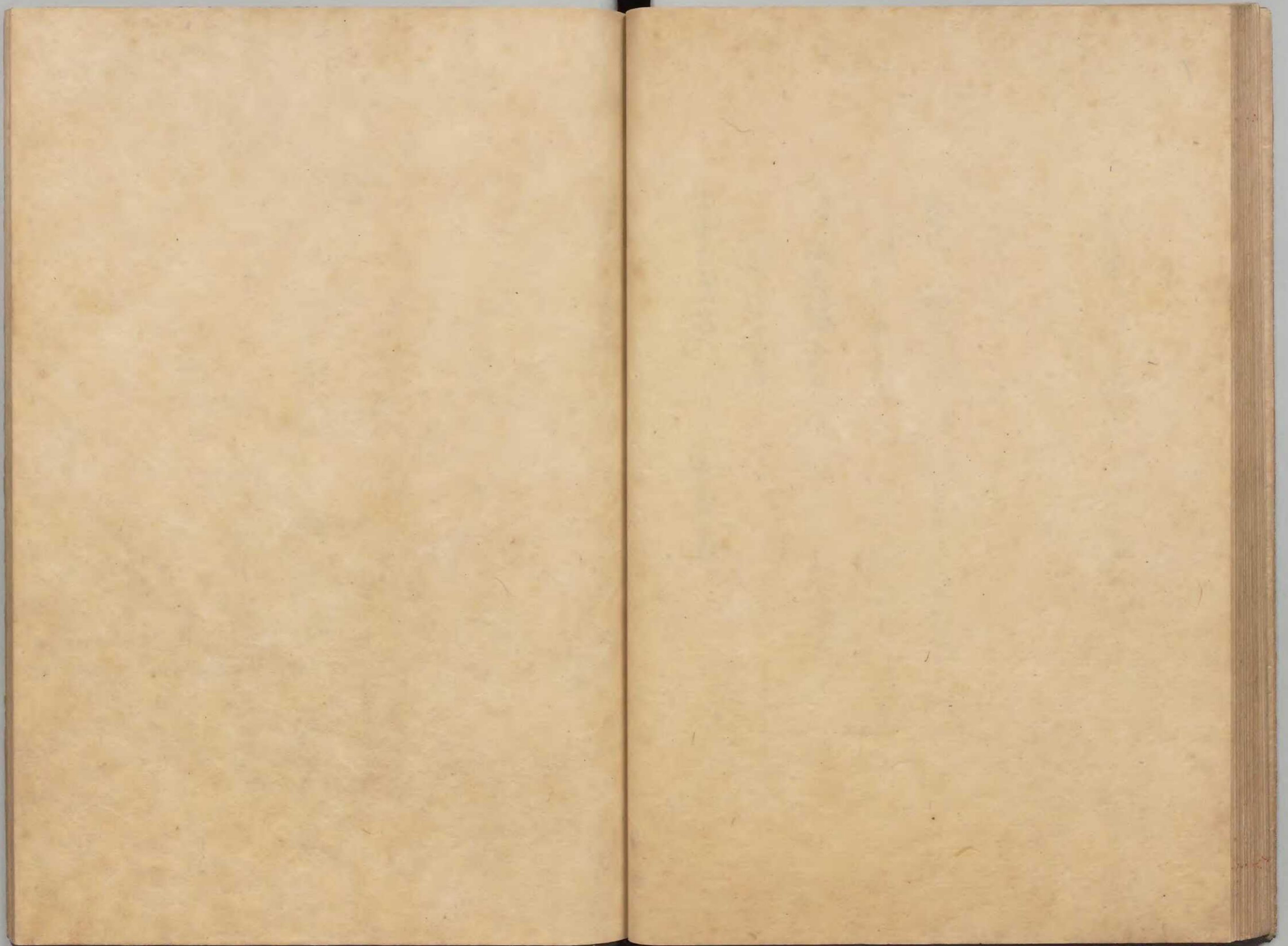
寛永二年より

名瀬院殿より此へくまら

同十年

將軍家より此へくまら

家乃級九の此へくまら



經方きやうほう

倉庫物くらぐらもの 位上いちじょう 位下いちげ 位々いちいち 本乃ほんの 文のぶん 神職しんしやく

行定ぎやうぢやう

倉庫物くらぐらもの 位上いちじょう 位下いちげ 位々いちいち 本乃ほんの 文乃ぶん 神職しんしやく

行乾ぎやうけん

定時ぢやうぢい

定年ぢやうねん

大忠尉だいしゆゑい

重定しやうぢやう

信泰しんたゐ

定泰ぢやうたゐ

時泰じたゐ

官本くわんぽん 一いち 時泰じたゐ 定泰ぢやうたゐ 廿にじふ たり あり
わも 定義ぢやうぎ 切少きりせう の 乃の 普ふ 家督けたく と けく
故ゆゑ 家督けたく の こと

定義ぢやうぎ

多義

行儀

刑初始て深尾と号と

刑初

定廣

廣泰

定利

文内

右東尉

文内

定正

多於ほ道悦と号と

生國を以

依と本乃家臣と依と之稱と

正廣

任兼 廿國同家

依と本兼禎り依とふり乃と浪人

とたふりて江列り一勢者と六十二

歳少く病死 法名道廣

正義

伊予東村 廿國同家

くわくはきん長次
生害乃ほりくわく

東照大権現より流るたて浦り系

釣命より流るくわく
あつとあつと

長正年系勝叛逆の記

大権現下燈園小より陣より給ふ記

高法部少輔之成道之記

上同より陣より流るたて浦り系

戸川肥後守甲族乃徳主等 釣命と

うけつるて山道河原より

流列用系よりせむ徳軍を

波年乃城とせあ正義道河原より

長流より加勢といくなくて波

年流城よりひく道河原より

しるふ取乃 徳主 一 けいけい いく 我
大指 現乃 意命 あり 潜 一 敵軍 一
ゆい いく 意命 と 抗前 中納 秀林
一 けい いく 一 徳軍 用 一 系 一
あつ 一 けい いく 一 かく 一 大 一 乃 一 一
守 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
けい 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
しる 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
しる 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
時 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
小 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

正重 ぬ 何 伴 兼 正 義 と 一 一 一 一
わ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
こ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
身 命 と 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
な 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
の 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
と 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
秀 林 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
道 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

鉤命とあつて急いで二三日つて
いづく敵陣に潜りせん事を為す
おしあり書翰よりらひて得て
乃腰高と秀林よりとく分け腰高
道河原先年秀林よりこれと交わ
これと送くる事しとて高次少将
道河原判状と送る是を命令と
しふふの實とあつて可なり又一撥
と引り得えんしとて廻文と書

正重正義これをゆとて八月
二十三日長崎とあつてしつと書
久本道と通してとて海と通
とて國を交りしとて秀林の軍
しつと書し其辺と返柏原より
及家老平忠人見せしとて秀林
とての書ししつとて秀林
封しひてふ鉤命とあつて援
皮の腰高と送道河原判状と書

うよよひく秀林道河津命とてふ
の疾と免とふたらふ赤坂乃神とてふ
ししひまゝに敵軍乃事とてふ
と反命とていゝく我

大権現乃鈞命とていゝく
るしとけ目小ぬ物とていゝく
大権乃城とていゝく
名菅氣清兼光とていゝく
しり馬田甲斐守井伊伝後とていゝく

く秀林乃反命とていゝく
福徳左衛門尉中書省とていゝく
議一拙言とていゝく
菅氣清兼光とていゝく
赴正義長徳とていゝく
おしとていゝく
事とていゝく
言とていゝく
大権現とていゝく

乃及命と連又敵軍乃祈と言上

大指現大よ清感あり其後

大指現清頃一善清の節秀秋の伎

志清若水清頃一善清の節秀秋の伎

乃陣一善清の節秀秋の伎

其後用ヶ糸の大款急敗軍と正義

正和を以て小幡一池田町中と

守清本陣とならんとき時一黒田

甲斐守先陣となりてけ地一善清

すく一善清を焼くとき正義い

我げ亦と守清本陣とならんとき

あれを焼くときあれときあれよ甲斐守

腰指とけ亦一善清の節秀秋の伎

られ一善清の節秀秋の伎

くは本陣と善清一善清の節秀秋の伎

かろく一善清の節秀秋の伎

守清正義

守清正義

ゆきゆくまの^あ福と^あ及^あく^あか^あり^あ井^あ作^あ
付^あ戻^あり^あか^あり^あ

安長十九年大坂沙陣よりきり
た^あく^あま^あり^あ

元和元年より大坂沙陣より付^あき^あ
同二年より

名^あ徳^あ院^あ殿^あより^あ流^あ入^あり^あく^あ海^あつ^あり^あは^あら^あぬ^あ
或^あは^あ日^あ光^あ沙^あ社^あ系^あれ^あは^あ信^あ子^あに^あれ^あ流^あ
行^あは^ある^あ

寛永三年六十四歳少く病^あ死^あ
法名海雲道宣

正信

かた^あ忠^あ尉^あ 甘^あ國^あ同^ああ

安長十八年十二歳少く後^あ存^あり^あ
い^あり^あく^あま^あり^あ

大^あ権^あ現^あと^あ相^あり^あく^あま^あり^ある^あ父^あより^あ
い^あり^あく^あ大^あ坂^あを^あ沙^あ陣^あと^あ行^あは^ある^あ

元和二年 江戸より

台座院殿より 江戸より

同之年 食禄とあり 板倉内膳正

一ノ所より 江戸より

寛永之年 沙加増とあり

台座院殿 江戸より 式目 元永社 参成

江戸物の 江戸より 江戸より

らと 英令 惟子 羽織 等 時より

おれと

同九年より

將軍家より 江戸より 江戸より 江戸より

一ノ所より 大正高とあり

同十一年 沙加増とあり 江戸より

兜玉 郡本 江戸とあり

同十一年 江戸書物より

總倉代より 將軍家より 秘書 倉澤 文庫

乃 律令等

將軍家より 江戸より

江戸 洞 蔵 庫

用出之即正成里合伴在出真板之雲
内記定氏為尾加志忠正修亦しんしん後
——別取べつしゆ——

同十八年大田傳中資宗すけむねより
奉引ほういん——氏うぢの道志みちぢ——命いのちトて
徳家とくけ系譜けいふと撰せんせ——じままよまより
く列國りやくこく乃な群侯ぐんこう幕下まくした此こゝ誌しととめく
家譜けふと撰せんるもの教しよ子こななり
同十九年どうじゅうくねんかかここてて僧錄そうろく元良げんりやう和わ為ゐ

多列おほり乃な法殿ほふだん正意しやうい——命いのち——ん民たみアア々
道志みちぢ——ん源氏げんし為ゐ氏うぢ法ほふ氏し
とつ——ん源氏げんし林はやし多た少せう
これと法ほふ志し——ん源氏げんし為ゐ氏うぢ長ちやう之しれ
とつ——ん諸氏しよし為ゐ正しやう意い——んれを法ほふ
く——ん資宗すけむね又また羽は平へいと法ほふ陽やう——ん能ね
——ん史し出い英えい神かみ十じゆ余よ人にんととり
く——ん友氏ともぢれれ繁はん蔓まんとわ——んめめ正しやう
のら——ん平氏へいぢととら——ん一いつ快かいととし

水戸乃儒士友人としてあること撰せ
しはかき多し正之より一属して

撰述しつゝあつる者十余人之あり
漢字れ文と正之より又私字れ一本と
撰せしむらかひしり多し其の撰
立給大橋忠右衛門正之小橋久為守後
之人より命しつゝ漢字として私字
しつゝあつる者十余人之あり
撰せしむらかひしり多し其の撰
立給大橋忠右衛門正之小橋久為守後
之人より命しつゝ漢字として私字
しつゝあつる者十余人之あり

正利

定氏用正成軍合具校為正信等
約命しつゝあつる者十余人之あり

精一助 甘國武彦

寛永十一年九歳少

將軍家と物しつゝあつる者十余人之あり

正治

友軍所 甘國同家

為清

野村長左衛門 生國同家

故あり〜母の氏と冒して野村

姓と

家乃級 四目法

今あ〜〜丸の内よ 鞠技と

元次

掃部

甘國

大指現より流るるて浦り

元治

掃部

甘國

凍尾

大指現

台漣院殿

將軍家

寛永十六年六月甲子

三法各源河

元宗

出右束

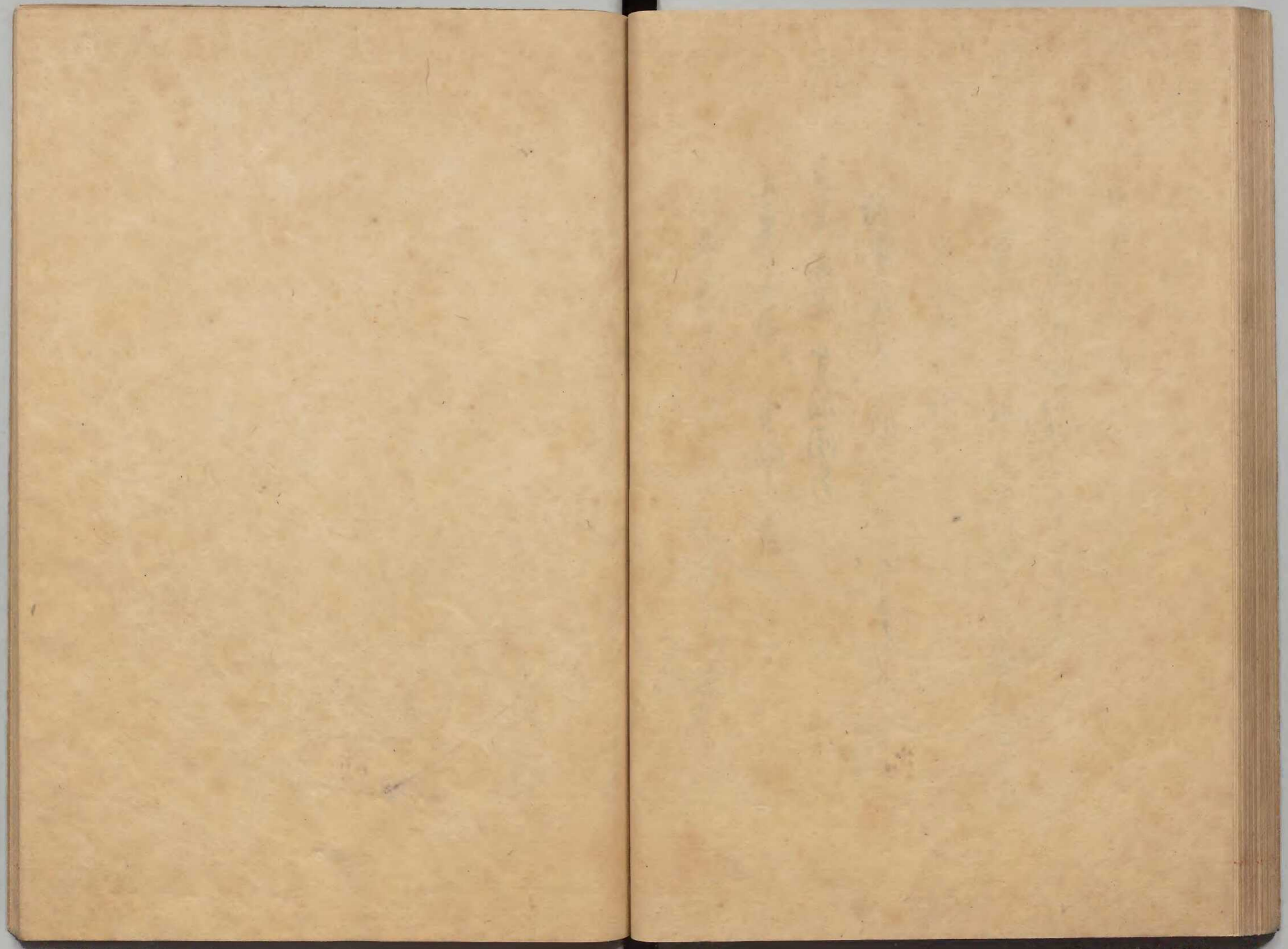
將軍家

元重

出右束

將軍家

家乃級



● 義志

水原

水原長つ雪 中園を以

依、木氏乃家老となり 江列り あり

信長依、木と征伐し 依、木殿と

討し 義志甲列り 下向し 勝れ

し 殿と

天正三年長篠合戦の時討死
四十之法名大会

義親

又七郎 生國同家

三正十年信長甲列一入るる時

義親が親族信長の旗ト一あり

け誓一 松子源太郎と一

り一 おうる信長薨一してらふ

同年

大指現甲列由を發の時大須坂出る屋敷

一 房一 湯一 一

一 真田由股せらるる一

一 甲列先方乃士真田一

一 發向し其田某と葉内志一

一 真田と互に合戦と相列氏並大軍と

一 御甲裝信濃乃境一 陣次甲列

一 乃通海と一

先方乃の芦田小屋一統して
一統して一統して一統して
氏並小田原一統して一統して
先方の士小屋と甲府一統して
人権現一統して一統して一統して
乃一統して一統して一統して
ふう乃ら修と家今友小屋一
一乃ら士家田七九郎一統して
飯沼乃城と一統して一統して
一統して

吳儀たぐこれと後とこれら城妻
とつと
信列相本小並原信濃守御殿せむ
一統して一統して一統して
向防戦つあり一統して勝利と夫とて
乃あり一統して一統して一統して
征伐乃と一統して先方の士若尾乃城
せめ一統して一統して一統して
小田原陣一統して一統して

忠長ちゆながつゝつふろらり

將軍家しやうぐんより

國長射郡くにながの將意しやういを店栗たにぐりの村むらよとひて

似他にたとて

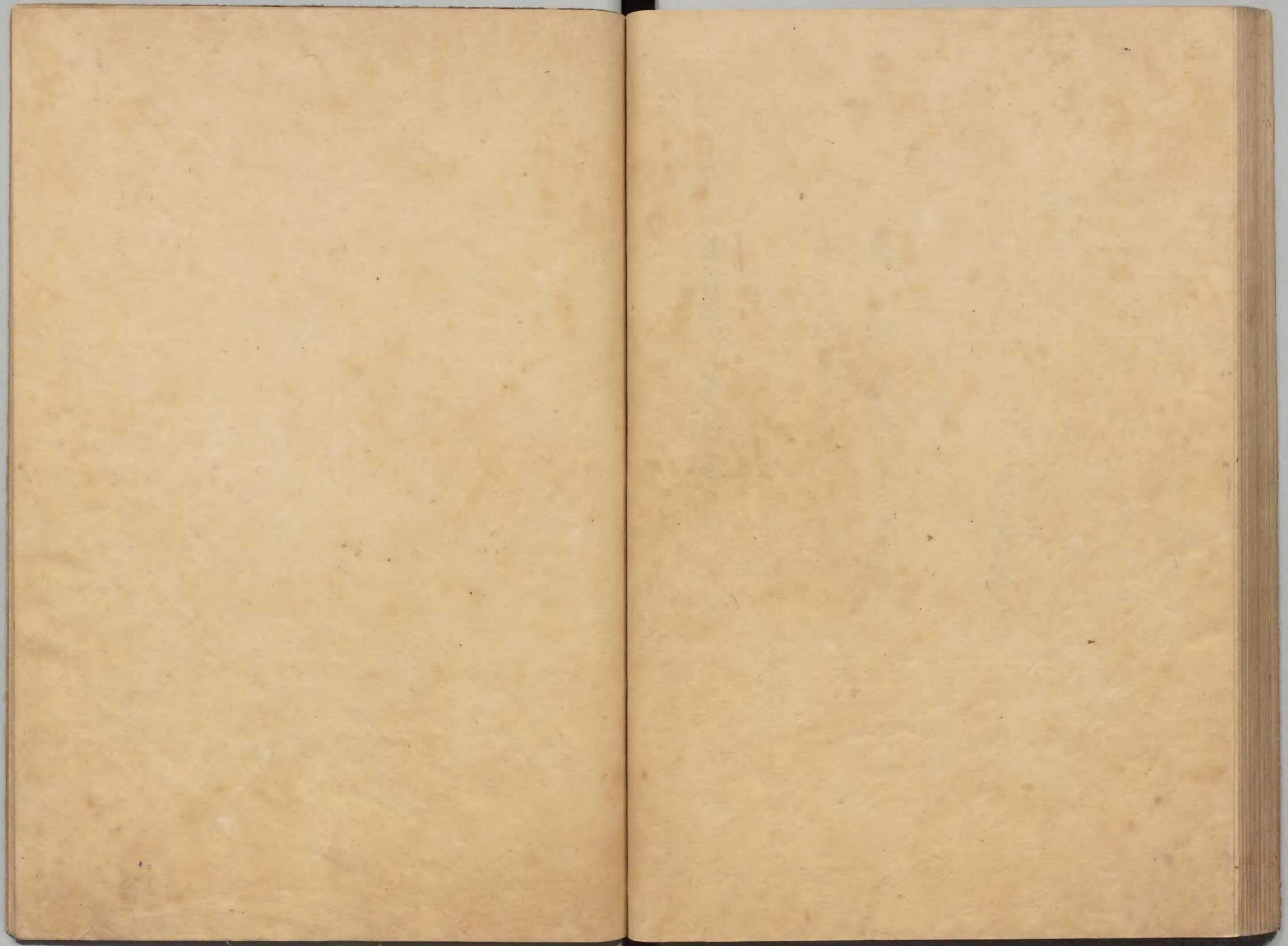
寛永十六年十一月

奥方おくかた乃事なりこととて

親正ちかまさ

生國武なまくに後

家乃級いへのき九乃くの檣はしら



●
宗信

依之本山城守 後四下生 本
光源院義輝 一 流

土屋

氏依之本なり 虎久
一 胃氏と胃
土屋と持

江列小那神湯に誠自たり

宗教

佐々木と二郎

義輝一しはふ

虎久

土屋好庵 文内御法中 生五山城
胃土屋在東村虎久ハ貴家の人なり

高橋右進 家一わり 虎久婚食

一をまらく 土屋氏一わらむ
醫術とらく 後陽成院しはふ

久和甲子三月十四日一 病死す
法名日為居士

虎隆

好庵 法橋

忠長 卿一しはふ

